

経営戦略研究科教授(会計専門職専攻) 山地 範明

## 1. 高い倫理観を持ち、国際社会で通用する職業会計人を育成

スクールモットー“Mastery for Service”（奉仕のための練達）のもと、関西学院大学アカウントティングスクール（会計専門職専攻）では、プロフェッショナルとしての倫理観を有し、国際社会で通用する職業会計人の養成をめざしています。学生には、ただ単に公認会計士の資格をめざすのではなく、世界を視野に入れ、会計士に求められる高いレベルの倫理観を身に付けてほしいと考えています。また、そのための実践的で体系的なカリキュラムを編成しています。

## 2. 新公認会計士試験で求められる能力を確実に育成する教育プログラム

カリキュラムはフレキシブルに編成され、学生の要望にも応えています。簿記についてはレベルに応じて6科目（基礎、応用、実践など）を設置しており、全国的に見ても数少ない試みを行っています。また、教育プログラムは、新公認会計士試験制度にも対応したものとなっており、少人数制で授業を行い、きめ細かな指導により知識と能力を確実に育成しています。

新公認会計士試験では判断力や論理的思考力が問われることになり、合格するには、理論をしっかりと身に付けている必要があるため、従来の暗記型の勉強法では、対応するのは困難になるかもしれません。“覚える会計学”から“考える会計学”への転換が求められているのです。

## 3. 一つの問題にじっくりと取り組む姿勢を養うことができる授業

例えば、私が担当する授業のひとつ「財務会計課題研究」では、学生一人ずつに財務会計に関する課題を与えています。学生はそれに対する考え方をまとめて、参加者の前で発表します。私は考え方のアドバイスやアプローチの方法を示し、他の学生も一緒になって解決の道を探ります。この授業を通じて、一つの問題に対してじっくりと考える学習スタイルを養い、さらに論述の仕方や論文の書き方を理解することができます。

## 4. 将来の目標を確実に実現するための学習環境

アカウントティングスクールがめざすものは、高い倫理観を持ち、国際社会で通用する職業会計人の養成です。教員と学生の密な関係が、将来の夢を確かなものにします。学生たちはみんな、将来の進路を真剣に考えており、学生同士で情報交換をするなど、いい雰囲気が形成されています。教員からのサポートとしては、オフィスアワーと担当教員制度があります。オフィスアワーでは、教員はそれぞれ、週に1回、決まった時間を設定し、その時間は必ず研究室に在席し、勉強への取り組み方や将来の進路といった学生の相談を受け付けています。また、担当教員制度では、専任教員が10人程度の学生を担当して、履修、奨学金、公認会計士試験や将来の進路などについての相談を受けています。